

今日は卒業式。春の暖かい日差しと冬の冷たい北風が交錯する時期。気の早い桜の花がぽつぽつと開き始めている。

*

思えばあつという間の3年間だった。笑いあり、涙あり、甘酸っぱい青春あり。まあまあ充実した3年間だったのではないだろうか。

今日は入学式。寝坊した桜でさえも花びらを散らせている。

式が終わり、友達との駄弁りもそこそこ家路につく。

新歓コンパで飲み会続きた。本当は未成年飲酒はダメなのだが、固いことは抜きだ。一次会が終わり、二次会の店に向かう。

「おーい！ たいちゃんー！」

「おーい！ たいちゃんー！」

後ろから聞こえるのは幼馴染のマキの声……ええ？

後ろから聞こえるのは幼馴染のマキの声。なんでだよ。

「お前なんでこっちいるんだよ、家反対側だろ？」

「お前なんでこっちいるんだよ」

「あのね、引越したの！」

「あのね、ここで二次会なの！」

そうはならんだろ。

そうはならんだろ。

マキとは仲のいい幼馴染だったが、会うのは今日で最後だと思っていた。

マキとは仲のいい幼馴染同期だったが、大学でも何だかんだ会う機会が無かった。

別れなごない

南風 こまち

「でも、引越したってどうして？」

「でも、二次会ってどうして？」

「うん、〇×大学に受かったから、そこに近いアパートに部屋を借りるんだ！」

「うん、△△先生のゼミに入れたからその顔合わせ会なの！」

「ふうん、そうだったのか。おめでとつ」

「ふうん、そうだったのか、おめでとつ」

「えへへ、ありがとうー！」

「えへへ、ありがとうー！」

マキはニコニコと笑った。でも、俺には関係ないことだ。俺も〇×大を受けたが残念な結果に

マキはニコニコと笑った。でも、俺には関係ないことだ。俺も△△先生のゼミを受けたが残念

「たいちゃん、電話鳴ってるよ」

「たいちゃん、電話鳴ってるよ」

「ん？ ほんとだ。もしもし」

「ん？ ほんとだ。もしもし」

『あ、タイチ？ さっき〇×大から電話が来てね、補欠で合格したって！ もう入学金諸々の手続きしとくわよー！』

『タイチ、俺だ。△△先生のゼミなんだが、一人退学になったから穴埋めでお前に来てほしいってさー！』

そうはならんだろ。

そうはならんだろ。

「たいちゃんは大学どこなの？」

「たいちゃんはゼミどこなの？」

「マキと同じとこだよ」

「マキと同じとこだよ」

「ほんと！？ すごーい！」

「ほんと！？ すごーい！」

*

そろそろ就活も山場に入る。季節の描写はめんどくさいから読者各位でテキストに想像してください。

「おーい、たいちゃーん！」

後ろから聞こえるのは幼馴染のマキの声。またか。

「お前なんでこつち」

「あのね、懇親会だったの！」

そうはならんだろ。

マキとは仲のいい幼馴染兼同期兼ゼミ生だったが、以下略。

「でも、懇親会ってどうして？」

「うん、*って会社に採用されたからその懇親会なの！」

「ふうん、そうだったのか、おめでとう」

「えへへ、ありがとう！」

マキはニコニコと笑った。例によって俺は**ダメだったので関係ない話だ。はい皆さん、次にそうはならんだろが来ますよ。

『あ、お世話になっております、**の◇◇です。色々ございまして採用させていただきたく……』

はい、皆さんと一緒に。そうはならんだろ。

「たいちゃんはどこ行くの？」

「マキと同じとこだよ」

「ほんと！？ すーいーい！」

*

入社して1年が経った。はい春の描写。

「おーい、たいちゃーん！」

はいいつもの。後ろから聞こえるのはマキの声。

「お前なんで」

「あのね、配属変わったの！」

そうはなら……いや、なるか。この展開は無かったな。

「上司を殴り飛ばして怒られるかと思ったら上司のパワハラセクハラがばれて上司はクビになって私は本社に栄転することになったの！」

そうはならんだろ。

「ふうん、そうおめ」

「えへへ、あり！」

マキとは色々あって仲良し以下略。

マキはニコニコと略。例によって諸事情につき俺には関係な

『あ、辞令です。本社に異動です』

電話まで雑になってきたな、そうはならんだろ。

「たいちゃんは？」

「マキと（略）」

「ほんすこ」

転職1年。あともういいだろ、偶然でマキもついてきた。以上！ え、ダメ？ 仕方ないなあ。

「おいちやーん！」

略しすぎて名前変わってるぞ寅さんになってるぞ。後マキ。

「お前」

「転職！」

そうはならんだろ。

「本社で色々あったの！」

そうはならんだろ。

「ふんおめ」

「えへり！」

マキ(井・井)

『あなた出向ね』

そうはならんだろ。知ってた。

「たい？」

「マキ同」

「ほんすこ」

*

結婚1年。あともういいだろ。偶然でマキと結ばれた。

以上！ え、聞かせる？ やかましい自分で書け。

マキ「じゃああたしが書くー！」

待て待て待てそうはならんだろ。いいよ書けばいいんだろ書けば。

「おたいー！」

後マキ。

「お前」

「結婚！」

そうはならんだろ。

「あなたと！」

そうはならんだ……え？

「あなたと結婚するの！」

とうとう別れフラグをへし折るどころか飛び越えてき

やがった。

『式場押えました！』

そうはならんだろ。

『奥さんおめでたです!』
そうはならんだ……いやなるか。なるわ。
あーもうめんどくさい! マキと俺は別れることなく
末永く暮らしましたとき! 以上、終わり、解散!

*

死後1年。天国の描写? そんなものはない。
「おい、たいちゃん!」
後ろから聞こえるのは妻マキの声。
「お前なんでこつち来たんだよ」
「えへへ、来ちゃった」
そうはならんだら。

*この作品は2022年度合同誌BLOOMに掲載した作品
を三文規格向けに改めたものです。